



JOTO Q&A

城東高校へのご質問に お答えします

入学者選抜について

Q 高校入試について教えてください。

A 平成30年春の入試を例に挙げて説明しましょう。定員は360名で、2月の「特別入試」と「海外帰国生徒（海外生活が2年以上で、帰国後2年以内）のための入試」、そして3月の「一般入試」の3つが実施されました。特別入試は国際教養分野と音楽分野に分かれ、それぞれ2年次から国際教養学類、音楽学類に進む生徒のための入試です。海外帰国入試と一般入試で入学した生徒は2年次から4つの学類のどれを選ぶことも可能です。その他については次のとおりです。実技の過去の問題（一部）は、本校のホームページで見ることができます。

H30年度の場合	日程	募集人員	検査の内容等	倍率
特別入試 (国際教養分野)	2月 14,15日	30名	学力検査(国数英)、面接 実技Ⅰ(注1) 実技Ⅱ(注2)	2.40
特別入試 (音楽分野)	2月 14,15日	25名	学力検査(国数英)、面接 実技(新曲視唱)(注3) 演奏実技 (声楽または任意の楽器)(注4)	1.36
海外帰国生徒入試	2月14日	若干名	面接、口頭試問	
一般入試	3月 8,9日	360から 上記合格 者を引い た数	学力検査(国社数理英)、面接	1.33

(注1) 実技Ⅰ＝「聞き取った英文をもとに、自分の考えなどを英語で書く」

(注2) 実技Ⅱ＝「英文の音読、その後英語による口頭での質疑応答」

(注3) 中学校で学習する程度の演奏記号(強弱記号など)を含む、20小節程度の新曲課題

(注4) 声楽又は任意の楽器で5分以内の演奏(ただし、ピアノの場合はバロック、古典・ロマン派のピアノ作品の中から任意の曲を演奏する〔緩徐楽章は除く〕)

校風について

Q 城東生の気質は？

A 「進取・協同」の校訓が示すとおり、何事に対しても前向きに取り組み、お互い協力し合いながら目標に向かってチャレンジする気風にあふれています。多くの生徒が自主自律の精神を持ち、友人と切磋琢磨しながら自己を高めようと努力しています。学習に、落ち着いて集中する姿勢で臨み、けじめのある集団となっています。また、全県学区の高校であり、毎年県下各地はもとより海外からも生徒が入学してくるため、多くの出会いがあり、新鮮な気持ちで高校生活を始めることができます。そのことにより、お互いを尊重し、相手の気持ちを大切に作る人間として成長することができます。

Q 施設・設備は充実していますか？

A 校舎の周囲にはたくさんの樹木が植えられ、緑豊かな環境が整っています。2か所ある中庭は、コンサートなど多目的に利用されています。グラウンド横には雨天練習場があり、授業や屋外の部活動で活用されています。設備面では、各ホームルームだけでなく、全ての特別教室にエアコンが設置され、また、全教室にLAN配線が設備されています。本校独自の施設として、生徒が昼食時間や放課後などに自由に利用できるコモンホールがあり、憩いの場となっています。さらに自習のためのラーニング室もあり、早朝、放課後、土曜日、長期休業中と多くの生徒に利用されています。校内3か所に設置されたインフォメーションボード(モニター画面)により、生徒への情報伝達が行われています。

他に40台余りのパソコンを設置したコンピュータ室が2室、さらにコモンホールや図書館に生徒が使用できるパソコンが150台以上(うちタブレット約40台)あります。また、全ての普通教室にパソコンとプロジェクターが設置され、普通授業で活用されています。別棟の校友会館には食堂があり、定食をはじめ豊富なメニューが揃っており、昼食時には多くの生徒で混み合っています。

貴重品の保管には、すべての生徒に対し、鍵付きの個人ロッカーが用意されています。

Q 校則はどうなっていますか？

A 城東生は校則を最小限にとどめ、生徒自身が自らの行動に責任を持つことで、人間的に成長しようという「自主・自律の4原則」を受け継いできました。校則には一般的な禁止事項はありますが、生徒の自主的・自律的な判断と討議による決定を最大限に尊重して校内の「ルール」が作られています。不合理な点があれば校則検討委員会→生徒会執行部を中心にクラス討議→生徒総会の手続きを経て校則改定を提起できるようになっています。スマートフォン(携帯電話)についても、生徒による討議を経て、生徒自身で使用ルールを決めています。

Q 学校祭について教えてください。

A 城東高校では、学校祭を「翠緑祭(すいりょくさい)」と呼びます。スクールカラーである“緑”を基調に第一期生に名称を公募し決定して以来、この名称で親しまれています。今年は文化の部を9月7日(金)と9月8日(土)に行い、体育の部を9月11日(火)に行います。8日(土)の文化の部は一般に公開します。昨年は2600人を超えるお客様をお迎えし、今なお進化し続ける学校祭です。

生徒の有志によって組織された「翠緑祭実行委員会」が企画・運営を行っています。「翔(かける)」「響(ひびき)」「蓮(れん)」「陽(よう)」「彩(さい)」など、学校を取り巻く情勢を反映したテーマが公募によって決定され、そのテーマの趣旨に沿って各部・委員会・クラス・有志の展示・発表が行われています。この内容については、多方面から高い評価を受けています。特に、全校生徒が参加してつくる巨大モニュメント「全校制作」は、翠緑祭のシンボルになっています。